



## 全ての人に届く経済成長 — 事実、要因、ツール

---

[ルパ・ドゥタグプタ](#)、[ステファニア・ファブリジオ](#)、[ダビデ・ヒューセリ](#)、[スウェタ・サクセナ](#)

2017年9月20日



ブラジルのサンパウロで慈善団体前に並ぶ人々。経済は全体的に成長しているものの、2億人を超える人々が世界で失業中である (写真: Paulo Whitaker/ロイター/Newscom)

経済成長は貧困を克服し、生活水準を向上させるための土台となります。しかし、成長が持続し、包摂的なものとなるためには、成長の果実が全ての人々に届くものでなければなりません。

経済の発展のためには、経済が力強く成長することが必要ですが、それだけでは必ずしも十分ではありません。

過去数十年の経済成長によって、生活水準は向上し、雇用機会が生まれ、数百万人の人々が極度の貧困から抜け出しました。しかし、私たちは一方で、その裏の側面

も目にしてきました。いくつもの先進国で格差の拡大が進行し、開発途上国の多くでは激しい格差がいまだに根強く残っています。

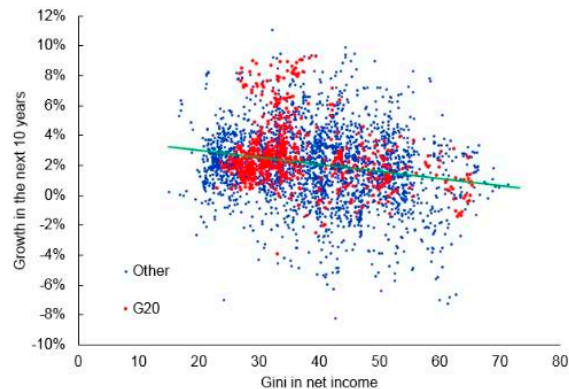
こうした状態にはどの国の政策当局も憂慮していますが、懸念するだけの理由があります。「包摂」とは、経済成長の恩恵と機会が幅広く共有されることと定義されますが、IMF の調査など各種研究から、この「包摂」が長年にわたって実現されないと、社会的な結束が蝕まれ、成長そのものの持続可能性が損なわれかねないことが明らかになっています。

私たちは、[本年 7 月にドイツのハンブルクで開催された G20 首脳会議に向けてメモ](#)を出しましたが、そのメモは、IMF が各国との協力から学んだことと、さらには、成長と平等の矛盾を緩和し、包摂的な成長を促進するためにどのような政策の選択肢が取りえるかについて IMF が行ってきた研究から得られた教訓をまとめています。

### Inequality and growth

Countries with higher levels of inequality, measured by the Gini index, tend to have lower growth over time.

(percent of GDP and net income inequality, 1960-2010)



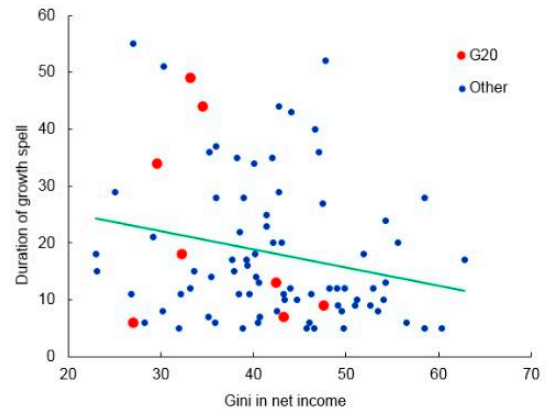
Sources: Ostry, Berg, and Tsangarides (2014), using data from Penn World Tables version 7.1; and authors' calculations.

Note: Dots represent counties. The Gini index measures inequality: 0 is no inequality, 100 is full inequality. The green line shows the correlation of growth and inequality.

### Inequality and the durability of growth

The higher the levels of inequality, the shorter the duration of high growth spells (as shown by the green line).

(spells, average net income inequality, 1960-2010)



Sources: Ostry, Berg, and Tsangarides (2014), using data from Penn World Tables version 7.1; and authors' calculations.

Note: Dots represent counties. The minimum length of a spell is five years. The Gini index measures inequality: 0 is no inequality, 100 is full inequality.

## 事実

包摂の欠如は、結果と機会の両側面での不平等性をもたらします。結果の不平等を表す尺度としては所得格差が最も広く引用されていますが、世界全体で考えた場合、所得格差は縮小しています。この格差縮小は主として多くの新興市場国や途上国の力強い成長によるものですが、世界の所得格差の3分の2は依然として各国間の平均所得の差に起因しています。

しかし、各国を個別に考慮した場合、所得格差は多くの国で急速に拡大しました。先進国では、格差の大部分は1990年代から2000年代半ばまでの間に広がりました。新興市場国や途上国での格差は、過去数十年間に多くの国で縮小したとはいえ、依然として高い水準にあります。

包摂の欠如は、雇用機会の不平等性や、健康・教育など基本サービスを利用する機会の不平等性によっても顕在化します。例えば、世界で2億人を超える人々が失業状態にあり、多くの国々で若年失業率が憂慮すべき高水準にあります。また米国内を含め、人口セグメントの一部での死亡率が上昇しています。

先進国の成人のうち、20%は依然として正規の金融サービスを利用できていません。例えば、金融機関に口座を持っていないのです。最後に、世界の大部分において、広範囲にわたる性差別が健康や教育、所得面での根強い男女格差につながっています。

技術や経済統合は多くの国と地域に大きな恩恵をもたらしましたが、その恩恵は必ずしもあまねく共有されてきてはいません。技術と貿易はともに、成長と生産性を後押しする原動力となって物価を下げ、所得の大部分を食料や衣料、その他の基本財に費やす貧困層に大きな利益をもたらしました。

しかし、技術により労働需要が増えたのは熟練労働者のみにほぼ限られており、一方で貿易は時として熟練度がより低い労働者の仕事を奪いました。また経済統合が進むに伴い、工場の移転や機材の使用増につながり、労働者が職を失ってきています。

### 全ての人々が恩恵を享受できる経済成長を促すために

では、包摂的な成長を促すためには何ができるでしょうか。

答えは、生産性向上と経済成長を促進する改革を先送りすることではなく、全ての人に機会を提供する政策に焦点を当てることです。政策当局は、成長の促進と不平等の



軽減を両立させる際に生じかねない矛盾を緩和する手段を設計しなければなりません。

この実現のためには、いくつかの選択肢があります。

例えば、道路や空港、送電網、教育に対する支出を拡大しつつ効率化することで、雇用を創出し経済成長を促進できます。また、最近インドやメキシコ、ルワンダで実現できたように、金融サービスへのアクセス拡大と金融安定性確保の手段を組み合わせることで、より多くの人々や企業に消費や投資の機会を提供できます。

求職活動や職業マッチングへの支援、研修プログラムは、求職者が自らのスキルに合った仕事を探すのに役立ちます。欧州連合諸国のうち、こうしたプログラムへの参加率が最も高いフィンランドやドイツでは長期的な失業率が最も低くなっています。財産権の強化は個人の人々の安心感を高め、労働移動を促し、法規制や社会保障制度の保護が及ばない形態の労働を防ぎ、包摂的な成長を支えます。

財政政策は包摂的成長を確固たるものにする強力な手段であり、不平等対策において重要な役割を果たしてきました。例えば、恵まれた人々と恵まれない人々との間の教育面と健康面での結果格差を埋めることは、不平等を緩和し成長を促進します。また現金給付などの社会福祉は最も脆弱な人々の保護に役立ちます。歳入確保は社会保障支出に必要な資金を増やし、不平等の緩和に寄与する可能性もあります。平等性と効率性が最もバランス良くなるように、財政政策を設計することが重要です。

貿易と技術の側面では、力強い成長を包摂的でもある成長へと移行させる上で、国内政策が大きな役割を果たします。実際、先行するIMFの[調査報告](#)では、政府による政策設計の重要性が明らかになっています。例えば、対外貿易の促進政策は成長を加速させますが、その過程で低技能労働者が失業すれば不平等が広がるかもしれません。対照的に、教育機会拡大など低技能労働者の所得と生産性の向上を目的とした改革を同時に行うことで、不平等を是正しながら成長を促すことができます。

なるべく広い層の人々に成長の果実を届けることは簡単ではなく、[G20](#)が認めたように、地球規模の努力が明らかに必要です。しかし、これは不可能ではありません。IMFはこの目標の達成に貢献できるよう、研究や技術支援、サーベイランス業務を通じて、世界中の政策担当者との協力を続けていきます。

\*\*\*\*\*



ルパ・ドゥタグプタは、IMF 調査局世界経済研究課の副主任。メリーランド大学カレッジパークで博士号を取得後、2000 年より IMF で勤務。研究関心分野や出版分野は広いトピックに渡り、新興市場国の成長や資本フロー、金融危機などである。



ステファニア・ファブリジオは、IMF 戦略政策審査局の副ユニット長。IMF での勤務開始前はスペインのサラマンカ大学で客員教授を務めた。研究関心分野はマクロ経済、公共財政、財政制度などで、特にマクロ経済政策と改革が所得分配に与える影響に関連した政策課題について幅広く研究している。経済学分野の有名な学術誌に多数の研究論文を掲載。欧州大学院 (EUI) で経済学博士号を取得。



ダビデ・ヒューセリは IMF 調査局のシニアエコノミスト。以前には欧州中央銀行と経済協力開発機構 (OECD) のエコノミストを務めた。マクロ経済、公共財政、国際マクロ経済の学術誌に幅広く論文を掲載。イリノイ大学で経済学博士号、パレルモ大学で地域経済学博士号を取得。



スウェタ・サクセナは IMF 調査局のシニアエコノミスト。経済危機と回復、波及効果、為替レートといった政策関連のマクロ金融問題に研究の焦点を当てている。American Economic Review や Journal of International Economics などに幅広く論文を掲載。IMF での勤務開始前には、スイスのバーゼルの国際決済銀行に勤務、またピッツバーグ大学の助教授を務めた。ワシントン大学で経済学博士号、デリー経済学院で経済学修士号を取得。